

竹細工の編地について

竹細工の編み方の基本的なパターンは、四つ目編み、六つ目編み、八つ目編み、ござ目編み、網代編み、菊底編みの 6 つあります。竹細工職人はこれらのパターンを発展させ、さらに多くのバリエーションを作り、現在で編み方の種類は 200 以上にもなっています。

四つ目編み、六つ目編み、八つ目編みは、それぞれ交差する線の数異なる、シンメトリックな交差織りです。四つ目編みは、縦の竹ひごと横の竹ひごが交互に、また上と下をくぐるように交差しています。このシンプルな編み方はとても理解しやすいため、幅広く使用されています。

六つ目編みは、2 方向ではなく 3 方向に竹ひごがあり、六角形のパターンが作られています。これは動物や野菜などを運ぶかごによく使われています。そして八つ目編みは縦横二本ずつ並べ、さらに斜めの竹が両方向に重なり、大きな八角形を作り出しています。八つ目編みはすきまが大きいので、実用的なかごにはあまり使用されません。

ござ目編みは、やや広い間隔を空けながら縦方向に丈夫な竹ひごを使い、より細い竹を縦方向に詰めて柔軟性を与える編み方です。これは農業や釣りに使う道具を作る時に使用されます。

網代編みは、斜めに編み込まれた竹ひごが、列ごとに交互に並ぶパターンです。非常に丈夫なので、茶道の道具や荷物を入れるかごなどによく使われます。

そして、菊底編みは、底部から外側に向かって丈夫な竹が放射状に広がるパターンで、その間に細い竹ひごが円形に編み込まれています。これは一般的に円筒状の道具を作るために使用されます。